修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　白滝末紀
東京都千代田区西神田
2丁目8－7（幅ビル）
電話（262）2426・2932
振替（東京）36337

修学旅行

改善策まとまる

積極的検討を

見学地の精選など

都道府県教育長協

都道府県教育長協議会（野尻高経幹事長）の第一部会（学校教育担当＝主査田村群馬県教育長）が四十二年度の研究課題として検討を重ねていた修学旅行の改善策は六月二十日東京・千代田区の都道府県会館で開催の総会に報告承認され、文部省に提出することになった。

同部会のまとめた修学旅行の問題点と改善の方向は次の通り。

▽問題点

①目的が不明確となり、観光旅行化している傾向がある。②定型化、画一化してきており、学校の主体性が失われがちになっているとともに、教師の指導性が弱くなってきている。③見学個所が網羅的、盛りだくさんになっているため見学が浅薄になり、所期の効果があがらず、かつ児童生徒の疲労度も大きい結果となっている。④交通事故の危険性がますます増大しており、安全の確保に問題が生じている。また、大きな集団による旅行の場合は、宿泊や食事などに関する保健衛生上の安全管理が不十分になりがちである。⑤児童生徒の団体行動中における指導上の問題が出てきている。⑥保護者の経済的負担が増嵩する傾向をみせている。⑦教職員の負担が過重になってきており、勤務について問題が出てきている。

▽改善の方向

①目的を明確にし、自主的で周到な計画に基づいて実施すること。ア、目的を再検討し、そのねらいと重点を明確にするとともに学校が主体性をもって計画をたてること。イ、小学校、中学校および高等学校の学校種別による児童生徒の発達段階や教育内容などを考慮し、小、中、高校の修学旅行に一貫性をもたせること。ウ、大集団の一律的な行動だけでなく、学級、ホーム・ルーム、グループなど小集団による活動内容をとり入れるなど工夫を加えることにより児童生徒の自主的活動を促進助長すること。

②実施内容の改善をはかること。ア、見学個所を精選し、日程に余裕をもたせること。イ、学校、地域の特性、設置学科などを考慮し目的地、実施内容などについて十分検討のうえ改善をはかること。ウ、中学校、高等学校においては来年期における集団生活の体験が人間形成上きわめて重要な要素となることにかんがみ、自然の観察見学とともに共同生活、宿泊訓練などの内容を組み入れることにより、望ましい人間関係の醸成、社会性、道徳心の涵養につとめること。エ、文化財を理解し、これを尊重しようとする態度を育成すること。オ、事前指導の一層の徹底につとめること。

③保護者の経済的負担の軽減につとめること。ア、必要経費を再検討し、保護者の経済的負担の軽減をはかり、実質的効果をあげるようつとめること。イ、日数について検討し、すくなくとも各都道府県の現行基準を拡大しない方向で改善をはかること。

④交通安全の確保ならびに保健衛生上の安全管理に十分注意すること。

なお、国立青年の家の増設とオリンピック記念青少年総合センターの整備、青年の船を高校低学年まで拡大することなどを要望している。【関連記事三面に】

修学旅行は学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行なう学校教育上極めて重要な行事である。

従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実向上を図る事は必要であり教育界に課せられた義務でもある。（財団法人・全国修学旅行研究協会の趣意書から）

修学旅行の意義

＝よい国民旅行の教育も

白滝末紀

論点

都道府県教育長協議会は修学旅行の問題が社会的関心をよんでいる実情を考慮して昭和四十一年度以来、その問題点の究明、改善の方向を研究してきたことは、その職責から見て当然の事ながら時宜に適したものとして、賛意を表するところである。

その問題点として指摘するところの第一は、修学旅行の目的が不明確となり観光旅行化しているという点である。したがってその改善をはかるために、修学旅行の目的を再検討し、そのねらいと重点を明確にする必要があると説いている。

教育長協議会のいうごとく、現在の修学旅行が教育指導上の目的が不明確であいまいであるか、ということになると、異論も出てくることであろう。

一部にはそういう学校もあり、また目的把握がふじゅうぶんな学校もあろうが、大部分の学校は修学旅行の教育目的の把握に無関心であったなどと考えるのは、正しくないと思う。

にもかかわらず、目的を再検討し、そのねらいを一そう明確にすることは極めて重要なことであり、同協議会の提案は有意義なものであったと考える。

この提案に答えるかのように、東京都教育委員会では、さきごろ、遠足・修学旅行の手引きを編集作成して管下の指導にあたり、その中に修学旅行の教育学習上のねらいを具体的に提示しているのは、極めて大切なことである。

すなわち（一）現地学習の特質を生かして（二）社会的訓練の場として（三）情操を育てる場としての三つの立場からさらに分析的にとらえ、その教育的意義を明らかにしている。

これは指導書に示されている「教科、科目等の指導の拡充」「健康、安全、集団生活、公衆道徳についての望ましい体験」「学校生活の印象を豊かに」という総括的なねらいを東京都のもつ地域性や児童生徒の実態をふまえてたてられたものであり、これが骨子となって、各学校の具体的な実践指導上の目標が一そう明確となり、重点のおき方も、それぞれ違ってくるのである。

すなわち各学校の学校経営の方針、教師の教育観によって、それぞれ学校毎の特色が出てくるのであるが、根本において共通した教育的理念に支えられているのである。例えば、自然を重んずる西高等学校と歴史学習を主とする白鷗高等学校の場合のごとく、生徒の「人間形成の場」としてふまえた修学旅行のあり方に二つの方法形態が示されるようなものである。

以上、旅行という生活形態を通じて学校教育の目的達成につとめるという、いわば「教育」を「旅行」によって行なうという立場であり、教育界からの考えかたであるが、もう一つ望ましい国民旅行の成長という角度から、修学旅行の意義を再認識している見方がある。

このたびの第五十八国会に政府から提出された「観光の状況に関する年次報告」の中で「修学旅行や遠足は、学校行事等の一環として教育課程の中に位置づけられた教育活動である。その教育的意義のほかに、わが国の健全な団体旅行の普及発達に貢献している意義効果も決して小さくない」として国民生活発展の必須条件である健全なる国民旅行の母胎として修学旅行の価値を高く評価しているのは、まったく正しい見解、評価である。

再言するならば「正しい教育を旅行によって行なう」とともに「正しい旅行の教育を行なう場」として再認識することが必要だということである。

なお、ここで用いている「観光」の用語は、観光基本法でいう用い方で「観光旅行化している」という教育長協議会の用語概念とちがったものであることを付言しておきたい。（財団法人　全国修学旅行研究協会事務局長）

都教委が"特例"出す

夏休みも実施

都立高校　二学年は四月から

東京都教育委員会（野尻高経教育長）では昭和四十五年三月十五日から九月十三日まで大阪府吹田市千里丘陵で開かれる日本万国博見学修学旅行について都立高等学校に限り特例を認めることになり、このほど各高校長あてに通知した。

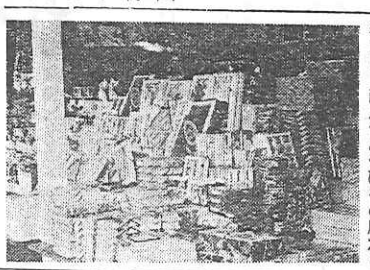
これによると①第二学年の九月一日以降実施を同年に限り四月一日以降とする。②夏休み期間中も実施できる、の二点で、日程延長（基準は九十六時間以内）は目下考慮中である。なお同教委では夏休みに実施するばあい、とくに衛生上の管理を厳重にするよう要望している。

「オリバー！」で四万人動員　文部省、都教委　全修協など後援の帝劇公演「オリバー！」は六月まで約百校、四万人の学生生徒を動員した。

みやげものを検査

東京・台東のモニター

東京・台東区はこのほど上野や浅草のみやげもの店から不良品を追放しようと三十三人からなる区の消費経済モニターからみやげもの専門に十人を動員、直接買いいれた品物を調べている。同区では年二回、商店やみやげもの店から商品を買い、量目不足や粗悪目を光らせているが、とくにみやげもの店の食品には苦情が絶えないという。ことしは修学旅行生で賑わう浅草観音付近と上野駅周辺のみやげもの店を重点に調べることになったもの。【写真はみやげもの店】



教委案練り直し

現場からの突きあげで

青森県

【青森発】さる二月、小中高校の修学旅行実施基準を決めた青森県教委ではその裏付けとして実施要項の原案をまとめ、六月十三日の修旅改善協議会にはかったところ、出席した地教委教育長をはじめ小中高校長、教諭、婦人団体代表ら約二十名から反発を受ける結果となり、県教委ではあらためてこれらの意見をいれて原案を練り直すことになった。

県教委の示した基準は小学校一泊二日以内、中学校二泊三日以内、高校は五泊六日以内で、従来にくらべると小学校一日、中学校二日、高校三日短縮されている。ねらいとしては都市や観光地を見せることだけが修旅の目的でなく、地域の成り立ちや自然に接することにも意義があることとし、この観点から実施要項として①目的を掌握して適正な計画を考える②教育的価値を検討し、内容の充実をはかる③児童生徒の発達段階に応じて小中高の一貫性を考え、実施の効率化をはかる④学習対象を精選、集約化して目的をはっきりさせる、などで小中高校別にそれぞれ五つのモデル・コースを示してある。

協議会で、ある教育長は「日程短縮は地域性を考えていない」と不満をのべ、また、青森市の某小学校長は「修学旅行にきつい枠をはめた反動として、日数をかけて林間学校や臨海学校へ行く子どもが増え、家庭の負担を重くする」などと反対を表明した。

風紋

六月十九日の早朝、京都市の本能寺会館の四階から修学旅行の中学生が転落死亡した事故は、報道機関によって大きく伝えられ、今更ながら校外において社会を場として教育のむずかしさを痛感させられた▼校内における整備された教育環境や家庭訓育の行きとどく父母のもとを離れ、集団で移動しつつ行なう教育である修学旅行は、事故を未然に防止するためあらゆる対策をたてて実施にあたっていることは論をまたない▼にもかかわらず、事故はおこり、ことは「いのち」に関することだけに、教育問題のみならず社会問題として、世論のきびしい批判をうけることになるのは当然である▼ひとり修学旅行のみならず、「旅」の事故は多発している。だから修学旅行の事故も止むを得ない。という考えかたは絶対に許してはならない。あくまでも完全防止をめざしてあらゆる努力を集中すべきである▼修学旅行無用論を唱える人の論拠の重要なものとして、事故の発生をあげる。もし、こんどのような事故をとらえて「だからいったことではないか。やめてしまえ」と直線的に感情的に持っていくようなことあったら反対である▼気違いのようなトラックにひっかけられてバスが防ぎようのない災害をうけた場合と違って、今回の事故の因由の考えられる問題が内在している▼平素の学校家庭の訓育、修学旅行実施の事前指導、夜間就寝時における保護看視など、教育内における問題が、旅館の構造の不備という外部条件と不幸な偶然で結びついてしまったものと考えることができる▼起ってならない事故であり、また再び起してならぬ事故のため、学校関係者はこの事件の経緯を発生の根本原因、直接の事由、結果の処理にわたり明らかにしてほしいものである▼これは責任の追及でなく、教育の進歩のための礎石である。

100万人の修学旅行コース　★　★　★　★

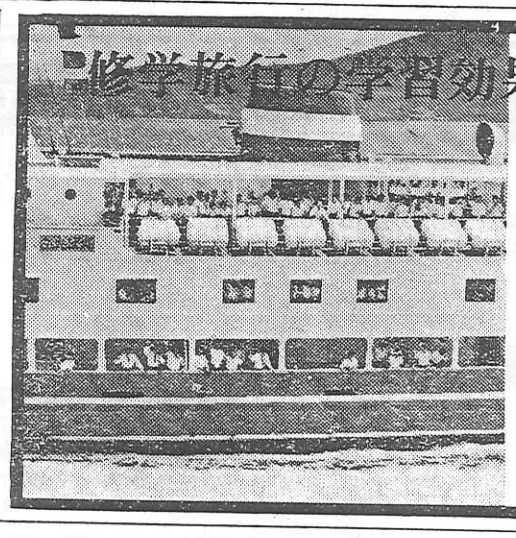
科学技術館

修学旅行の教育的意義を高めるためにも、ぜひ科学技術館をコースにおいれください。

●冷暖房・団体休憩室（400名）・食堂（300名）完備
●無料大駐車場（大型バス50台）

お問合せ…東京都千代田区北の丸公園　科学技術館業務部　TEL東京（03）212－8471（代表）
★地下鉄（東西線）：竹橋下車　★日本武道館となり

修学旅行の学習効果向上のために



全船冷暖房完備の修学旅行専用船
わかば丸・ふたば丸
旅客定員805名・1,100トン
●一般客との混乗がありません
●船内での学習や研究ができます
●海・船の社会科研究もできます
楽しい有意義な瀬戸内海の修学旅行を！
関西汽船
お問合せは…大阪（441）9161
ほか関西汽船各地営業所・各旅行斡旋案内所

都立高校 修学旅行の〝ねらい〟

財団法人・全国修学旅行研究協会（山本種一理事長）では六月十七日、東京・新宿の都立教育会館に都立高校の校長、教諭および修学旅行担当教諭による座談会〝修学旅行のねらい〟を開いた。都教育庁指導部指導第一課長班目文雄氏を座長に推し、学校側から現在実施している修学旅行の実態と学校独自のコースの発表があり、それに対して活発な意見の交換が行なわれ、高校修旅のあり方に大きな示唆を与えた。

主催 全修協 座談会

白滝（全修協）高校教育がしだいに改められつつあるとき、これが修学旅行のあり方にどんなかかわりを持つだろうか。いまこれを明らかにしていくことは大へん重要だと思い座談会を開催したところご多忙のなかを都教育庁、現場の先生がた、国鉄、研究団体その他関係者多数のお集りを戴くことができ、主催者として非常にうれしい。座長には都教育庁の班目先生にお願いし、現場の先生からのご意見を中心にいろいろお話し合って戴き、修学旅行の正しい発展のための研究方向を見出したいと思う。

修学旅行の座談会会場（東京・新宿の都教育会館で）

出席者

（順不同・敬称略）

都教委指導部指導第一課長（座長）　班目　文雄
同主査　西村　光矩
赤坂高校教諭　手塚　忠則
戸山高校教諭　蜷川　寿惠
西高校教諭　田村　耕一
同　猿渡　秀達
白鷗高校教頭　荒川　潤
小松川高校教諭　谷口　擁
昭和高校教諭　高橋　安夫
農芸高校教諭　宮田　侃一
王子工高校教諭　仙崎　武
三商高校主事　東山　毎美
秋川高校教諭　佐藤　勇夫
南多摩高校教諭　土岐　和広
八潮高校教諭　野口　武男
文京高校長　阿部　乾六
前全国高校長協会会長　成田　喜英
国鉄営業局旅客課課長補佐　上田　定男
日修協事務局長　犬丸　勝良
日本交通公社営業部　沢畑　泰一
株式会社日本旅行　鷲山　茂
近畿日本ツーリスト東京修旅センター所長　福原　賢次
（財）全修協事務局長　白滝
同　調査研究部長　末紀　実
山本

基調の三点から……みて有意義だ

班目　一部の学校で修学旅行をやめるべきだという風潮もあるようだが、現在の修学旅行に改革を加える余地はないだろうか。本日お集りを願った都立高校の先生方から現在実施している修学旅行の実態を伺い、もし問題があるならその点を率直に話して戴きたい。

手塚（赤坂高）修学旅行が明治以来、名称が変っても続いているのは①現場学習②社会的訓練③情操教育の三点からみて深い意義があるからだ。①は教室で学習できぬこと。例えば地理、歴史など現地へ行かなければ体験できぬ②学校は校門で社会と区切られている。従って社会的な訓練を集団で行なえる③文化財に触れたり自然にひたることができる。青年の時代を数日間、いっしょに暮らすことの楽しさ、これを基調にして考えると有意義につきる。

生徒の気持も汲……みとらねば……

班目　例えば物見遊山的であるとの批判に対する答えとして…

猿渡（西高）旅行先きが変わっているということだろうが、西高では一昨年から上高地へ行くことにしている。

班目　校内での反省と意見は―

猿渡　この新しい試みに対して先生方の間でもいろいろ見解はある。しかし生徒の作った「修学旅行のしおり」の冒頭に〝勉強、知識のエスカレーション。自由の世界への飛躍…〟と書かれてあり、この生徒の気持も汲んでやりたい修学旅行の価値論とは別だが。

班目　この新形式に対して文化財見学中心の例として―

荒川（白鷗高）本校は例年関西へ行く。高校時代、古文化財を見させておくことは必要だ。大自然との触れ合いは成人となってからでよく、わざわざ貴重な時間を費やすことはない。中学校も同じコースを行くというが、違う角度から学習させればよい。しかし奈良や京都ばかりがそれに適しているかどうか検討の余地はあろう。

修学旅行を機に……行事をたて直す

班目　中学校と高校で見学対象が重複することについて。

沢畑（交通公社）中学生には中学校の学習程度で見せることが必要で、高校での重複は差支えないと思う。

仙崎（王子工高）本校は定時制だが、学年会で考え、一年半前に計画する。基本的には①自然②工業③文化財の三点にしぼっている。生徒の自主性を入れて、黒四乗鞍、上高地、名古屋を中心にした工業地帯などをクラスごとに見学しているが、結果としてはよかった。文化祭での発表も真剣に行なわれ風紀面でも成果があった。修学旅行を機として学校行事を建て直すことにも成功したし、あらゆる角度からみて指導面の総決算として考えさせられることが多かった。

班目　修学旅行が華美になっているというのだが―

阿部（文京高）華美はいましめるべきだが、あまり切りつめることはいけない。食事を豊かにすれば間食は減る。宿泊費の値上げも否定してはいけない。貧弱な内容で生徒をしばることはかわいそうだ。新幹線でも疲労が少なければ利用してよいと思う。中級程度を下らぬようにしたいものだ。

国鉄の目標は……輸送増強に

東山（三商高）本校では服装をやかましくいっている。定時制だから成年に達している生徒もいるが、タバコは厳禁。旅館でのマナーも正しくさせ、また食事などの手伝いも自発的にやっているほどである。

班目　輸送面について。

上田（国鉄）国鉄の第三次長期計画を実施中で、投資は約三兆円におよぶものだ。大都市周辺の通勤電車の増強も含まれており、本年十月に前半完了を機に時刻改正を行なうことになっている。修学旅行関係では根本的な増強を目標として対策を進めてゆきたい。

班目　つぎに修学旅行の全国的な傾向はどうか。

犬丸（日修協）それぞれの学校が新工夫を出そうと努力しているし、また、批判があるため新しい工夫をしている学校も見受けられる。文部省で集計している実態調査は近く発表されるが、三十四年度の調査にくらべると実施数や参加生徒数も増え、積極的に取り組んでいるのは事実である。全国的にみて全国の小中高校では学校行事としての修学旅行や遠足を真剣に考えているが、なかには遅れているものもあり、格差も生じている。

野外か古文化財か

各学校で特色を生かす

高校ではセット……旅行は無意味

班目　修学旅行の計画実施の自主性、事後の評価について。

佐藤（秋川高）一昨年に開校した全寮制の高校だが、いつ、どんな方法で、どうしたら学習の効果をあげ得るかと考えた。具体的にいうと集団訓練、歴史、地理の三つに分け、さらに九十六時間を二分してみた。一年生は一泊とし、伊豆半島や三浦半島などへ生物、地質の学習を、二年三年は歴史地理がどちらにも入り組んでいるため問題は残るが、一応、三年は奈良、京都へ行った。他校と比較してみると、寮生活をやっているためか、すべての点で楽だった。

谷口（小松川高）昨年転勤してきたばかりでよく事情は判らないが、修学旅行廃止論をアピールしたのは世間ではなくてむしろ教師側ではなかったかと思う。修学旅行に対する生徒の気持ちは容易にくずせる状態ではない。同じ年寄仲間で、文化財や大自然を自分自身の眼で見、感じ取っている。また、学校を離れ、自主的な組織体系の中で生活した体験は貴く、また楽しいものである。高校のばあい、セット式旅行は駄目で、自主性を生かさねばならない。小グループによる見学方式もよいが、それだけ学校の指導もしっかりしたものでなければならない。

額に汗する修学……旅行でありたい

班目　農芸高校としての修学旅行はどうか。

宮田（農芸高）農芸高校の特性を生かすため現場学習を第一としている。名古屋、伊勢、南紀へ行き、農業土木、園芸、農産状態を見学し、愛知用水も見た。南紀方面では果樹の栽培など教育的効果をあげた。ことしの旅行ではちょうど日曜の午後、大阪の環状線にのり合わせ、混雑に遭遇したが、日常生活でなれていたためか何事も起らなかった。職業高校であるため果樹栽培と結実状態、薬剤の散布から土壌の問題、共同出荷のことなど、現場の学習を先ず考えるべきではないか。額に汗する修学旅行、そして生徒の自主的な考えで、学習できる修学旅行、そのような修学旅行にしたいと思う。

対話のない修学……旅行はさびしい

班目　南多摩高校では変わった修学旅行をしている。紹介してもらいたい。

土岐（南多摩高）コースは奈良と京都であるが、まず生徒にとって興味あるところを事前調査させて選ばせ、その希望の場所へ行かせた。この場合、クラスは関係なく、希望のグループを作るのである。画一的なコースでは興味を持たぬが、これなら希望したところに行けるので熱心に学習した。中学校と重複しても年代が変われば、自ら見方も変わってくるものだ。中学時代と同じものであっても、高校のときの受け入れ方に大きな変化のあることを自分で発見するに違いない。要するに生徒の見たいものを積極的に見せればよいのだ。疲労を少くするため新幹線を使い、荷物携行の無駄を省くため同じ旅館に宿泊している。

高橋（昭和高）三年前に学年担任となったが、修学旅行はあっ旋業者まかせで、自己反省をしている。だいたい修学旅行ではその地域の人々との対話がない。これが非常に修学旅行というものを空虚にしているのではないか。文化財を守りつづけてきた人との対話、旅館では地域生徒たちとの話し合い、それが欠けているのが淋しい。

古い形の修学旅……行にもよい点が

蜷川（戸山高）修学旅行は学校教育のなかで必要な行事だ。本校は奈良、京都と古い形を踏襲、実施している。実は六、七年前に修学旅行が議題にのぼり、賛否を論じ合ったが、結局、存続させることになり今日に至っている。反対論のなかには教職員の負担増大もあったが、学校行事としては欠かせぬものだという結論になった。日比谷高校でさえ全面的廃止とならず、学年旅行として実施されている。古い形の修学旅行のよい点としては①東京という日本の中心に住んでいることの思いあがりをなくしたこと。未知の街を歩き人に接したとき人間的視野の広さを認識させた。②生徒が自主的にコースを樹てるのには関西が最も適している。時間をかけて綿密に計画するので、事前指導もうまくいく。

新しい方向はいい……くらでも出る

班目　八潮高校では新コースを実施するというが…

野口（八潮高）昭和三十八年の修学旅行委員会で定めた大枠で実施している。十一月中旬、京都三泊、コースは生徒まかせであるが、だいぶ時日がたっているので検討している。学級単位やグループの希望にそうためにはバス二台程度がよい。中学校との重複については生徒も批判的であるが、事後のアンケートによると「よかった」が七〇%から八〇%を占めていた。新幹線を使ったのも時間の無駄を省き、快適な旅を目指したためだ。ことしはテストとして東北コースを選んだが、これは新しい形式を考えたいとの意志からであって、修学旅行の意義を検討すれば、もっと違った方法が出てくるだろう。

修旅の万博見学……には宿舎確保

成田（前全国高校長協会会長）修学旅行に対する父兄の考え方が必要だし、PTAの全国組織も話題になる。深い関心がある以上、修学旅行の実情を父兄層に徹底させたい。

班目　では万博について。

上田　国鉄では輸送計画の作業を進めており、七月から八月にかけて考え方を発表したいが、全修協や学校側からの情報もききたいと思っている。先ず万博開催時の輸送は大丈夫だ。

福原（近鉄日本ツーリスト）万博見学を加えた修学旅行の宿舎は確保してあるが、万博だけのものは確保しかねる状態である。

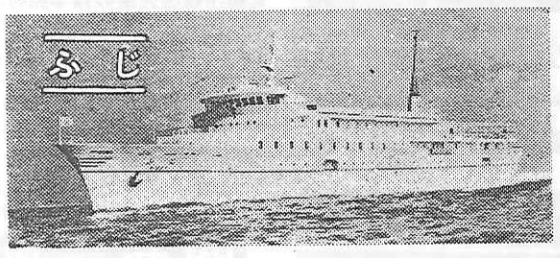
万博開催時は宿舎の問題が起きるものと予想しており、大手のあっせん業者はすでに万全の手配を終っている。修学旅行は学校行事として特に配慮しなければならぬところから、われわれとしてもその確保に努力し、大阪市を中心とする近畿地区では旅館側の協力もあって今まで通りに修学旅行は実施できる。ただ、前にも申した通り〝万博だけ〟は無理である。

山本（全修協）東京の公立中学校は基本線を打ち出した。学校行事として万博をどう扱うかが今後の課題になろう。

西村（都教委）都立高校に限って万博開催時には特例を出して学校の要望にこたえたいと思っている。

班目　いろいろ貴重なお話が向え、ご出席の先生がたも非常に参考になられたと思う。これからも創意工夫を重ねてりっぱな修学旅行を実施されるよう希望している。ではこのへんで。

修学旅行は　日本最大の　豪華観光船で



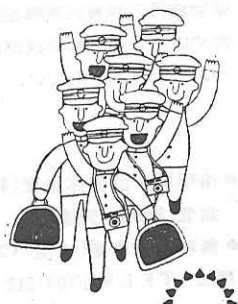
みなさまのスケジュールで全国各地へご案内します。

■すぐれた船内設備
■動く海の教室
■安全性がたかい

大島運輸

東京支店　中央区日本橋通1―6（浅野ビル）
電話東京（273）8911

修学旅行のことなら
ツーリストまかせで安心です



修学旅行専門のスタッフをそろえて、学習効果のあがる、安全な旅行の研究を重ねている**近畿日本ツーリスト**…修学旅行の事前指導、コースづくり、乗りもの・お泊まりの予約手配、旅行中のおせわなど、めんどうなことはなんでもおひきうけします。お近くの**ひまわり窓口**を、お気軽にご利用ください。

● 週末旅行に 便利でおトクな周遊券

電子計算機がおてつだいする　ひまわり窓口
近畿日本ツーリスト